23.10.26

池干し魚捕り 姿消し寂しい

無職　後藤　忠男　72

10月になると思い出す。稲作が普通期であったころ、水田の水引が終わったのを機に農業用ため池を干して地区を挙げて魚捕りが行われていた。何日も前から網やウグイと呼ばれる竹で作った用具の手入れをして待つのも楽しみだった。

水が少なくなった池を囲んでかねの合図で一斉に中に入り大きなコイを捕まえては歓声が上がった。春先に放たれた稚魚は50キロ、3、5を超す大ごイになっているものもあった。大人はもとより子供まで頭から泥水をかぶり懸命にコイやフナ、ウナギを追っかけたことが懐かしい。捕れない人や子供には多く捕った人が獲物のコイなどを分けてあげたりして触れ合いの場としての役割も大きかったと思う。

ため池の底にたまった土泥をかき混ぜて除去することを目的に毎年行われた魚捕りも稲作が早期栽培になったこと、ため池の水質汚濁が進んだことなどにより農村の伝統行事は自然消滅してしまった。誠に残念である。

（宮崎市）